



高知  
から

## シシトウのうどんこ病は納豆で抑える

原 敬介

シシトウを露地でつくる須崎市の鍋島雄一郎さんは、うどんこ病対策に自作の納豆菌液をかけています。予防散布が基本ですが、発生初期にまいても病気は広がらずに、最小限の被害に抑えられるそうです。やり方を聞きました。

約10ℓの水が入ったバケツに「おかめ納豆」を3パック入れ、砂糖400gを投入して攪拌。日陰に1日置いておけば、納豆菌液の完成です。砂糖をエサに納豆菌を殖やし、菌の働きを活発にするのが狙いです。

10ℓの菌液は、納豆のマメをザルで濾しながら200ℓの水で薄め、シシトウ5aに動噴で散布。うどんこ病の菌を洗い流すイメージで、まずは葉表に、そのあと葉裏にたっぷりかけるのがポイントです。

「以前はイオウフロアブルをまいていたけど、

それよりもいい」と、鍋島さんは効果を実感しています。



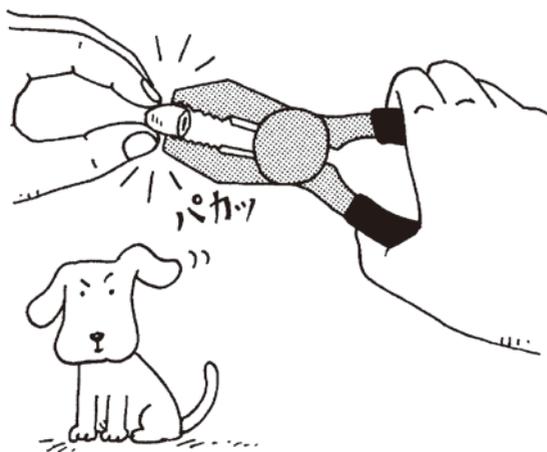


神奈川  
から

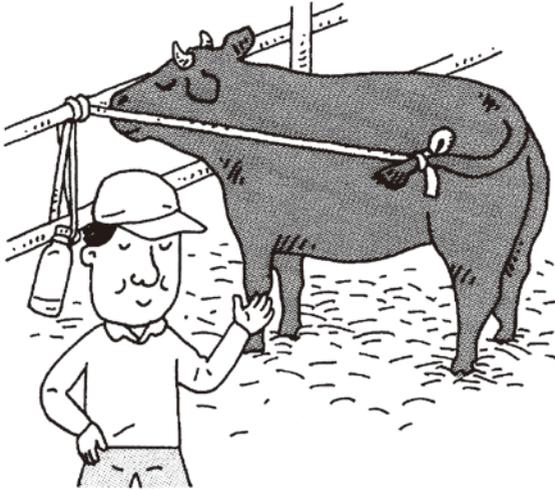
## タネをペンチで割れば、 ズッキーニの発芽がビシッと揃う

厚木市の鈴木誠三さんは、露地とハウスで野菜をつくる直売農家。そんな鈴木さんの頭を悩ませていたのはズッキーニの発芽揃いでした。50穴セルトレイで育苗するのですが、種皮が硬いせいかダラダラと芽が出るため、苗のうちから生育がバラバラ。温度や肥料の一斉管理がうまくいきませんでした。

3年ほど前、発芽不良のズッキーニのタネの尖っているほう（根が出るところ）をペンチで挟んでみたところ、パカッと割れて隙間ができました。これを埋め戻したところ、翌日には芽が出てきたのです。これとは思い、次作の播種前、すべてのタネで同じ処理をしたところ、発芽がビシッと揃いました。カボチャも同じやり方で揃いがよくなるそうです。



川瀬菜摘



沖繩  
から

## 牛のタネ付けの悩み解消、しっぽ縛りの工夫

吉田祐貴

多良間村で繁殖親牛35頭を飼育しながら人工授精師をしている森山英樹さん。人工授精のときに牛がしっぽを振るので、なかなか作業がはかどらないことに困っていました。ひどい時には精液の入ったストローをはたき落とされたこともあったか。

そこで森山さんは、簡単にしっぽを固定できる道具を作りました。道具といっても、3mほどのロープの先に、少量の水を入れた500ml容量のペットボトルを括り付けただけです。

使い方は図のとおり。ロープの端を牛のしっぽに結び、ペットボトルをスタンションや牛を繋いでいる柵のほうに投げます。あとは柵の外からロープを引いて、スタンションや柵に結ぶだけ。

人工授精のときだけでなく、お産や妊娠鑑定のときに暴れる牛にも、このやり方は有効です。



広島  
から

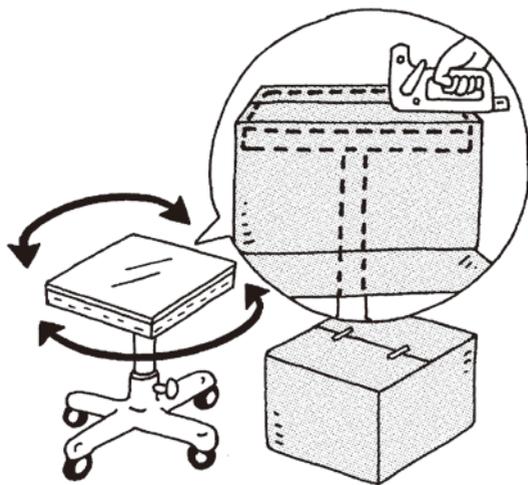
## 回転椅子とコンパネで、くるくる回る作業台

向井道彦

東広島市でジャガイモをつくる増田典生さんは、梱包や箱詰めをラクにするためいろんな工夫をしています。中でもお気に入りのは、回転椅子を利用して作った作業台。回転椅子の座席を外し、段ボールの底面よりも小さいコンパネ（ステンレス板を貼って補強したもの）を取り付けたものです。

段ボールの底をホッチキス留めする時は、片側を留めてから作業台をくるっと回せば、同じ体勢で反対側も留められます。ジャガイモを入れてフタを閉じるときも同様です。

「以前はそのつど手で箱の向きを変えてホッチキス留めをしていたが、これでかなりラクになった」とのこと。こういうところに農家の工夫が輝いていると思いました。

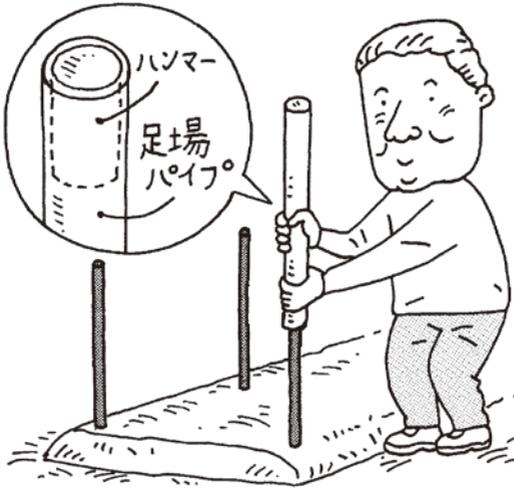




宮城  
から

## 足場パイプとハンマーで、ラクラク杭打ち器

上原野亜



定年退職し、キクの電照栽培に取り組み始めて2年目になる丸森町の船山太さん。今年は栽培面積を2反増やして6反で取り組む予定です。面積を広げるとなると、キクを支えるフラーネットを固定する支柱を新たに打ち込まなければなりません。去年は左手で支柱を支え、右手に持ったハンマーで打ち込んだそうですが、これが腕に負担でたまりませんでした。

しかし今年、先輩農家から教えてもらった足場パイプハンマーがあります。長さ60cm、直径48・6mmの足場パイプの中に、柄を外したハンマーをはめ込んで溶接したものです。

これを支柱に被せて何度か落とすだけで、支柱がラクに打ち込めます。同じようなものは市販品でもあるようですが、それよりもはるかに安くすみました。